



SDGsキッズ支援プロジェクト2024

学ぼうSDGs!! 暮らしと防災・減災

主催 『SDGsキッズ支援プロジェクト』実行委員会  
(産経新聞社、積水ハウス、大阪ガスネットワーク)

後援 大阪府  
協力 大阪市立阿倍野防災センター

# SDGsキッズ新聞



産経新聞社

企画制作：『SDGsキッズ支援プロジェクト』実行委員会  
(産経新聞社、積水ハウス、大阪ガスネットワーク)

発行所 ©産業経済新聞大阪本社

〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57  
電話(06)6633-1221(大代表)

## 自然災害へのそなえ 自分で学ぼう!



「消火は15秒で」。消火器の使い方を学んだ

### SDGs体験学習プログラム 「学ぼうSDGs!! 暮らしと防災・減災」

- 日時 2024年10月6日(日)  
会場 ○あべのハルカス 25階E会議室(1と3)  
(大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43)  
○大阪市立阿倍野防災センター  
体験型防災学習施設「あべのタスカル」(2)  
(大阪市阿倍野区阿倍野筋3-13-23)
- プログラム  
13:30 ① 空の教室  
～空のメッセージを聞いて自然災害から身を守ろう～  
講師：奈良岡 希実子氏  
(NPO法人 気象キャスターネットワーク理事)
- 14:30 ② 「あべのタスカル」 体験学習  
16:00 ③ 記事作成 「新聞記者になろう」

### 空のメッセージ知り、震度7体験

よりよい社会を未来へつないでいくうえで大切な防災・減災を学ぶSDGs体験学習プログラム「学ぼうSDGs!! 暮らしと防災・減災」が10月6日、大阪市阿倍野区の大阪市立阿倍野防災センター「あべのタスカル」などで行われました。京阪神の小学3年～6年生16人と保護者など計34人が参加、気象予報士(きょうぼうし)から空が伝える自然災害のメッセージを学び、震度7の揺(ゆ)れを体験するなどして地震や火災からの命の守り方や備(そな)えの大切さを考えました。災害に直面するということを身をもって知った子どもたちがその体験を記事にしてこの新聞を作りました。

体験学習はまず、超高層ビル「あべのハルカス」の25階会議室で授業「空の教室」が行われました。「空のメッセージを聞いて自然災害から身を守ろう」が授業のテーマ。講師の気象予報士、奈良岡希実子さんはクイズで問いかけながら、なにげなくみている空でも雲や雨、風などに注意すると、自然災害の予測(よそ)に役立つことをわかりやすく説明してくれました。雲ができるしくみをみんなで考えたあと、ペットボトルで雲をつくる実験。さらに雨ク

イズや雷(かみなり)クイズなどで気象を解説(かいせつ)しながら①被害をあらかじめ「考える」②雲や風の変化など周囲のようすに「気づく」③早めに「行動する」の3つの「K」で自分の身は自分で守りましょう、と教えてくれました。クイズにはみんな元気に手をあげて答え、ボトルの中で手品のように生まれる雲に目を見はりました。

このあと体験型防災学習施設「あべのタスカル」に移動して防災体験をしました。大地震で被災した町を再現したセットや地震装置(きんそうち)で震度7の揺れを体験できるエリアなど7エリアを職員(しんご)の説明を受けながら回りました。消火器でスクリーン上の火を消したり、煙(け)がせまる通路を避難(ひなん)したり。かたむいた建物(たけもの)やくずれた壁などがせまってくるような「がれきの町」では音と光の効果で余震(よしん)のこわさを実感。震度7体験では、あまりの揺(ゆ)れに思わず声が出て、必死(めいじ)に手すりにつかまりました。リアルな地震体験に「こんな揺れがきたらこわい。ふだんからそなえておかなきゃ」などと話していました。

# 外で遊ぶときは空の変化に注意!

## 空の教室 空のメッセージを聞いて自然災害から身を守ろう

気象予報士 奈良岡希実子さん NPO法人気象キャスターネットワーク理事



「いわし雲がひつじ雲に変わると雨になるサイン。雲の変化でお天気を予想(よそ)できます」。奈良岡さんはクイズを出しながら空のメッセージを聞く方法を教えてくださいました。

夏によくみる積乱雲(せきらんうん)についてはその下で起きる激(はげ)しい雨や雷、突風について説明して「こわい雲なので要注意」。

雲を作る実験では、子供たちの代表3人がペットボトルの中にポンプで空気を送り込みました。そしてフタを開けると「プシュッ」という音がして一瞬(しゅん)で白い雲が生まれました。「ボトルの中の空気が圧縮(あっしゅく)されて温度が上がり空



気中の水分が水蒸気になったのですが、フタを開けると温度が下がり水蒸気が水の粒(つぶ)になって雲になったのです。みんな「マジックみたい」と目を丸くしました。

このあと奈良岡さんは「雷の正体は？」と質問。「積乱雲の中で氷の粒がぶつかって静電気が起きて雷になる」と正解を明らかにして「雷が鳴っているときは大きな木に近寄らず

がんじょうな建物に避難を」と呼びかけました。

「50ミリの雨が大人のカサの広さに降(ふ)ったとするとどのくらいの重さになるか」というクイズでは、「ペットボトル100本分(50キロ)の重さ」という正解に「えー」と一斉(せい)に声(こゑ)が上がりました。

「川は上流で大雨が降ると下流で急に水位があがることもある」「たつまきのときは窓から離れて」と、具体(ぐたい)的な事例を示しながら「外で遊んでいるときに注意する空の変化」として①黒い雲が近づいている②冷たい風が吹いてくる③大粒の雨やひょうなどが降ってくる④雷の音や光に気付く(あ)げま(あ)げました。

最後に教えてくれたのは「自然災害から身を守る3つの『K』」。被害(がい)メッセージを「考える」▽周りの様子に注意して「気づく」▽早めに避難するよう「行動する」で、「自分の身は自分で守る」という気持ちが大切、と話しました。

## SDGs (持続可能な開発目標)

「だれ一人置きざりにしない」を合言葉に、2030年までにすべての人々にとってよりよい、持続可能な未来を築(きず)こうという国際目標。2015年の国連サミットで採択(さいたく)され、飢餓(きが)や貧困、不平等、気候変動、環境劣化(かんきょうれっか)、平和と公正などについて、解決すべき17の目標と、そのための行動指針169ターゲットを定めています。このままでは、人類が安定してこの世界でくらし続けることができなくなる、という危機(きき)感から世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、決めました。

### 17目標 2030年までに実現めざす

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

# 「あべのタスカル」体験学習

## 震度7の揺れこわかった 備えが大切

大阪市立阿倍野防災センター「あべ

のタスカル」での体験学習は2班に分

かれ、高さ6メートルのスクリーンの

「タスカルシアター」や「消火を学ぶ」

「震度7体験」など7つのエリアを職員

の説明を受けながら体験しました。

「消火を学ぶ」エリアは消火器を操

作(そうさ)してスクリーンにうつし

出されたコンロから出火した炎を消

しました。ホースを向けると丸いマー

クが現れ、それを火元に当てるので

すが、意外にむずかしい。「あれ、消

えない」。こんな声もあがりました。

「消火剤(ざい)は15秒間しか出な

いので、火が天井に燃え移ったらあ

きらめて避難してください」という

説明にみんな耳を傾(かた)けていま

した。

つぎは「煙(けむり)を学ぶ」。「煙

が広がる速さは横方向には人の歩く

くらい、上方向にはその10倍の速さ

です」と注意を受けた後、ほんとう

に煙が噴(ふ)き出す通路を背をかか

め口をハンカチなどでおさえて通る。

ゴゴゴとせき込む子もいて「ちよつとくるしかった」。

「がれきの街」は震度7の地震で被

災した住宅や商店が実物大で再現さ

れていました。壁や屋根がめちゃく

ちやくずれ、看板は今にも落ちて

きそう。すさまじい被害に目を見張

りながらその間を避難。「避難ルー

トは2つ以上考えておき、避難する

ときは建物からはなれて」との説明

に、子どもたちははなつとくした様子

でした。

「震度7体験」では阪神大震災の直

下型と東日本大震災のプレート境界

(きょうかい)型の2つの揺れを体験。

起震装置(きしんそうち)が取り付け

られた床に立ち、手すりにつかまる。

直下型は少し揺れたあと下から突き

上げるような衝撃(しょうげき)。プ

レート境界型は体を引きたおすよう

な大きな横揺れがユサユサといつま

でも続きます。最初は余裕(よゆう)

をみせていた子どもたちが「ワッ」と

声をあげ、手すりを強くつかみ、こ

わばつた表情にかわりました。

「とにかく頭を守ることが大切」

地震で壊れた街並みを再現した「がれきの街」を見て「こんなに壊れるのか…」



「揺れがおさまったら家のブレーカーを落として避難してください」。この日聞いたさまざま注意が身にしみた様子でした。

## SDGsと防災・減災

防災と減災に取り組むことはSDGsの目標実現と多くの面でつながっています。

災害にみまわれた時に大切な「自分の身は自分で守る」「命を守るためにみんなが互いに支えあう」という「自助・共助」は、SDGsの「だれ一人取り残さない」という理念に通じます。

目標ごとにみると、11「住み続けられるまちづくりを」は災害に強いまちづくりをめざすことで直接的につながり

多くの目標で  
深いつながり

ます。13「気候変動に具体的な対策を」は地球温暖化で豪雨(ごうう)や台風の大型化など気象の激変(げきへん)への対策を求めています。ほかにも2「飢餓(きこう)をゼロに」、3「すべての人に健康と福祉(ふくし)を」、6「安全な水とトイレを世界中に」、7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、9「産業と技術革新(かくしん)の基盤(きばん)をつくらう」など、多くの目標とつながっています。



**Q1** いわし雲 → ひつじ雲は、①晴れるか ②雨になるか



**空の教室  
クイズ**

回答は6面

**Q2** 雨つぶのかたちは?

① フランスパン ② あんパン  
③ クロワッサン ④ パターロール

**Q3** カミナリの正体は?

① 火 ② 静電気  
③ ガス ④ エックス線

**Q4** 50ミリの雨が大人用のかさ(約1平方メートル)に降ったときの重さは?

① ペットボトル1本分(500グラム) ② ペットボトル10本分(5kg) ③ ペットボトル100本分(50kg)

**「おやじ・まなと」**  
(小林政仁)小学5年

50ミリの雨がふると、おとなのかさにペットボトル100本分50キロがのったのと同じくらいの重さになるなんて信じられませんでした。それにやわらかい布のぞうきんが暴風になるとまぜガラスを割ってしまっそうです。どんなものも凶器になるかもしれない。身の周りのかんきょうを日ごろからよく見て気を付けることが災害の被害を防ぐことにつながります。家の中を調べて地震の時にどう避難すればいいかも考えたいです。水と食料は人が生きるうえでとても大切です。SDGsの飢餓や水環境の目標に関心があります。

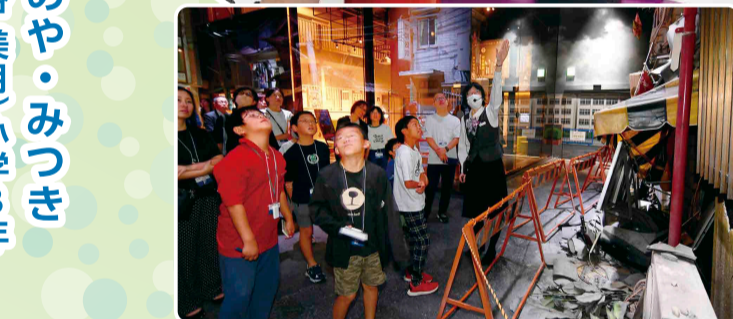
**日ごろから周りのかんきょうに気を付ける**

「がれきの街」は家がこわれかけているし、電柱はかたむいて、地下からちぎれたホースがのぞいていて、ほんとうにじんがおきたらこんな風になるのかと思いました。たおれてくる物のしたじきにならないよう、どこへひなんすればいいか考えました。つまみでは上へ上へにげることです。しゅうかきのつかいかたも、火のねもとをねらったらいいとおぼえました。水や火はふだんはなんでもないけど、じんがたいふうになると、川で人が流されておぼれたりしようがい物に当たって死んだりしてきけんです。

「空の教室で、気づく・考える・行動する」という3つの「K」を覚えてもらいました。災害があった時に自分で考えて行動することが大切です。お話は、いわし雲がひつじ雲になったら雨のサインとか、3択クイズでわかりやすくおもしろかったです。あべのタスカルのシアターで観た映像で避難訓練をしていた人はケガをしなかったことを知り、私も避難訓練をしっかりやらなくては、と思いました。震度7の揺れは手すりをもっていても手が離れそうになって怖かったです。

**まつむら・わく**  
(松村和來)小学3年

**やました・えみか**  
(山下笑花)小学6年



**空にきょうみをもちました**

**「ならばやし・ひな」**  
(榎林陽菜)小学3年

台風による高しおでかん西空港が水びたしになったと知りびっくりしました。台風は雨や風だけでなく、高しおも注意しなければいけないそうです。しん度7の地しんというものが、7という数字だけではピンとこなかったけれど、実さいに体けんしてみたらすごくゆれて手すりにつかまっけてもたおれそうになりました。地しんの本当のおそろしさわかりました。友だちにもつたえたいと思います。さいがいなど悲しい顔にならないよう知しきをつけたいです。みんな笑顔の世界がいいです。

**減災の心得 ①**

**□ 防災と減災のちがいは?**

「防災」は「災害を防ぐ」ことを目標に、災害そのものを防いだり、被害がでないようにする取り組み。「減災」は、防げなかった災害が起きたときに、その被害を最小限にする取り組み。「自助」「共助」「公助」の連けい求められます。

**□ 地震が起きたらまず何をやる?**

揺れが来たら、がん丈なものに「身をかくす」「火に近づかない」。揺れがおさまったら、余震に注意しながら①火元を確認②出口を確保(かくほ)③裸足(はだし)にならない④連絡先を残して避難しよう。

**ほんとうのじしんは「きょうに」くる**

**「うえつか・ゆき」**  
(上塚友葵)小学3年

いわし雲やひつじ雲が出る、次かその次の日か雨が雨になる事が多いと知りました。後で空を見たらひつじ雲があつて、天気予報は「明日は雨」でした。空にきょうみをもちました。父が阪神淡路大震災で自宅が全かいする被害にあつたので地震のこわさをよく聞いています。タスカルシアターのビデオで地震の後ひなん先を書いてドアにはりつけてからひなんするのをみて、私もやるうと思ひました。けむりたいけんは、近所で火事があつた時はおいがきつかつたので、本当の時はおつと苦しいだろうなと思ひました。

**もりた・みなと**  
(森田湊斗)小学4年

積乱雲はげしい雨やたつまき、カミナリを起す可能性がります。それら起こつたときは巻き込まれないようじん速にがん丈な建物にひなんすることが大切だと学びました。まわりの人にも伝えたいです。火事の初期消火の方法を覚えてもらえたのもよかったです。知らなかつたら何をやるかわからず、動けなかつたと思ひます。水害はこわいけど、きれいな水がないと病氣になります。世界にはきれいな水を人々に届けるインフラが整つていない国があると聞き、そういう人たちがせつになる世界をつくらたいです。

**「そめや・みつぎ」**  
(梁谷美月)小学3年

このたいけんがくしゅうつでは、しん度7たいけんをたのしみにしてました。でも、ほんとうにやってみたらとてもこわかつたです。なんかいトラフのよゆれが長くつづく方がだめでした。じしんを甘くみてました。しかも、あれは「来る」といわれてからゆれたのですが、ほんとうのじしんは「きょう」にきます。そなえがいらいます。ひなんくんれんをきちんとやりたいたいとおもひました。自ぜんさいがいやせんそう、ぼうりよくがない世界をSDGsをすいしんしてたつてほしいです。



**「やの あつひさ」**  
(矢野敦久)小学6年

雷が発生したときは、大きな木の下にげてはいけなことを知りました。がんじょうな建物の中にげます。自然災害から身を守る3つの「K」も覚えてもらいました。ここは大丈夫と油断せず、早めに避難するとう「行動する」の「K」は大切です。震度7のゆれは手すりにつかまっけても立っているだけが精一杯で、いきなり起きたら何もできないなと思ひ、こわくなりました。災害が起きたときはまず自助をして、さらに共助でみんなが助け合えるようにしたいです。

さめき・ゆうか  
(讃岐 優佳) 小学3年

自然災害から身を守る3つの「K」というのを教えてもらいました。自分の安全は自分で守れるようになりたいです。なんでも大人にたよっていたら、自分が大人になっても自分のことが自分でできない人間になってしまう。しんどいけんはともてもゆれて手すりになかったらころんでしまうと思いました。こんなじんがいきなりきたら、けがをしたりしんどいままうかもしれません。でも、くんれんやひなん場所のチェックなどをしっかりしていれば、きつと生き残れると思います。

たいふうはたかしおも  
ちゅういがひつよう



おおぎり・たくと  
(大桐 巧豊) 小学3年

くもをつくるじっけんはくうきをいっばいいてふたをあけるとくもができた。かんだんでもしるかった。かえってからじぶんでもやってみようとおもいました。しんどいけんもおもしろかったです。ゆっくりだったゆれがきゅうにいっぱいゆれて、おみこしにのってゆらされているみたいでした。ほんとうのときはつかむ手すりもなくてこわいだろうなと思いました。しょうかき体けんて火をねらっただけじゃなかったのもういっかいやりたいたいです。さいがいにたえられるしつかりした町にすみたいです。



ひなんのしかたをかんがえなくては

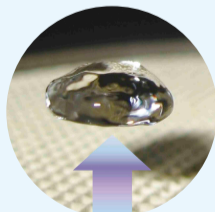
しらがみ・いつき  
(白上一稀) 小学4年

雨つぶというのはしずくの形と想像していたら、下から風をうけることになってあんなような形になると「空の教室」で聞いておもしろいなと思いました。「あべのタスカル」では地しんのゆれがあんなにはげしいということをしんどいけんをしてみてはじめて知りました。こわかったけどそれがわかってよかったです。地球の気温がこのままもつと上がってゆくと人が住めなくなってしまうのでSDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」をじつげんしてほしいです。

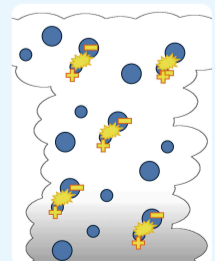


空の教室クイズの答え

- A1 「②雨」 ひつじ雲はお天気下り坂のサインともいわれます。翌日が翌々日に雨になることも。
- A2 「②あんパン」 はじめは丸かった雨つぶが下から風をうけるとつぶれてあんパンのかたちになります。
- A3 「②静電気」 積乱雲の中にある氷のつぶ同士がぶつかって静電気が発生することでカミナリがおきます。
- A4 「③ペットボトル100本分(50キロ)」 50ミリの雨というのは、1時間で1メートル×1メートルの箱の中にたまった雨の高さが50ミリということ。つまり大人の傘に50リットルの水が乗っている状態。激しい雨とよばれ、カサは役に立たず、マンホールから水があふれることも。



水のつぶに下から風をあてる実験



氷のつぶがぶつかった時に、静電気が発生

ふくざわ・たつよし  
(福沢 龍義) 小学3年

いわし雲のこととか、カミナリのこととか、クイズで空のいろんな知らなかったことを学べ、おもしろかったです。大きなスクリーンでじしんのえいぞうをみました。ものがこわれてきて頭をうったりかじになったりして、大きなじしんがくるとこんなことがおきるのか、とこわさをしりました。ひなんのしかたをかんがえなくては、と思いました。SDGsは目標14「海の豊かさを守る」にかんしんがあります。海の生き物の命を守るためプラスチックで海をよごさないようにしたいです。



こじしりょう  
(小西 諒) 小学5年

積乱雲が雷を落としたり、大雨を降らせるのだと知り、すごくこわい雲だなと思いました。震度7のゆれは、つかまっていな  
いと立っていられないくらい強くて、本  
当に起きたら上から物が落ちてきたり倒  
れたりするし、どうしたらいいのだろう  
と考えてしまいました。この体験でいろ  
んなことが学べてよかったです。ぼくは学  
校で勉強することができると、世界には  
子どもが学校に行けない国があると知り、  
SDGsの目標4「質の高い教育をみんな  
に」に関心を持ちました。

あつというまに  
雲ができた

たまい・ひろと  
(玉井 大翔) 小学3年

雲を作る実験でポンプをおすのに力がい  
りましたが、ポンプを外したらあつという  
間にペットボトルの中が白くなった。何  
か液体が入っていたのだと思ったら空気中  
の水じょう気の温度が下がり水のつじにな  
って雲ができたというビックリしました。  
前に音楽とバトンのボランティアで岩手県  
へ行き、東日本大しん災でひ災した人の  
話を聞きました。つ波は本当にこわいと思  
いました。ぼくが学校へ行っている間に何  
かあったら家族であつまる場所を決めて  
いるのであぶないところをさげながらそ  
を  
目指そうと思います。

煙はしやがむかつこうでひなんする



つじ・そうたろう  
(辻 奏汰郎) 小学4年

雨つじはしやくの形かと思っていたらあ  
んパンの形をしていたなんて面白かつた  
です。消火体験ではじめて消火器を持ち  
ましたが、教えてもらったら使い方はわり  
とかんたんでした。ホースは火の根本を  
ねらえばいい。煙があるところはしやが  
むかつこうでひなんすると煙を吸いま  
せん。もし火事になったらこの体験を  
生かしたいです。がれきの街などを  
みて、地しんがおきたら建物や家の中  
のものがみんな倒れてきてこわいと思  
いました。家に帰って見たら棚が倒  
れてきそうに思いました。地しんの時  
は近づかないようにします。

(敬称略)

かわもと・めい  
(河本 恵依) 小学4年

50ミリの雨の重さのクイズが面白かつ  
たです。おとなのカサに50ミリの雨が  
ふると、500ミリリットルのペットボ  
トル100本分で50キロにもなるなんて  
全然知りませんでした。しんど7体験も  
ゆれが大きくてびっくりしました。ほん  
とにこんなじしんがきたらいやだけ  
ど、良い体験ができたと思います。地球  
温暖化で毎年どんどん暑くなっている  
のでSDGsの目標13「気候変動に  
対さくを」をじつげんしてほしいです。  
暑くてしんどいし、服だつてまよつて  
しまいます。



減災の心得  
②



□ 初期消火のポイント

消火器や水など手近なもので協力(きょうりよく)して行う。天ぶら油のときは水をかけず、濡(ぬ)らした大きなタオルやシーツですっぽりおおいましょう。消火剤は直接油にかけるととびちるので、カベからはね返りを利用します。初期消火の限界は「天井に火が届くまで」。わずか1~2分の間といわれています。



□ 煙から身を守る

煙の広がる速さは、横方向は秒速0.5~1メートルで人が歩くくらい。階段などを上に上がる速さは秒速3~5メートル。人が上がるより10倍くらい速い。煙には呼吸困難(こんなん)をもたらす一酸化炭素が含まれていてこわい。

逃げるときは①ハンカチなどで口をおおう②低い姿勢で進む。煙で視界がきかないときはかべ伝いに③誘導灯があればそれをたよりに避難口へ④防火扉(とびら)があれば閉める⑤避難したらもどらない。

□ 消火器の使い方

①火元の3~5メートルに近づき②安全ピンを抜(ぬ)く③ホースを火元に向ける④レバーを強くにぎる⑤火の根本に噴射(ふんしゃ)する。



## わたしのSDGs宣言

SDGs体験学習プログラムに参加した子どもたちが「わたしのSDGs宣言」を発表しました。ふだんの暮らしの中で何ができるか。さまざまな誓いが表明されました。

**こにし・りょう(小西諒)**  
みんながやさしく、差別をしない社会に

**やの・あつひさ(矢野敦久)**  
地域の人と仲良くしたい。そうして共助ができる関係にしたい

**さぬき・ゆうか(讃岐優佳)**  
だされた食事はできるだけ全部食べる

**おおぎり・たくと(大桐巧豊)**  
大雨、かみなり、台風、川のはんらんをくもを見てわかり気をつけたい

**しらがみ・いつき(白上一稀)**  
行動、言動をするときは相手のことをよく考えてからする

**たまい・ひろと(玉井大翔)**  
地球にやさしく、じしんにもあんなぜんな素材で家をつくる

**まつむら・わく(松村和來)**  
家族を守る人になりたい。けいさつかんかしようぼうしになってへいわなせかいにしたい

**ふくざわ・たつよし(福沢龍義)**  
けんかのない平和な社会にするため、みんなの心一つにしたい



**そめや・みつき(染谷美月)**  
あいさつをきちんとする

**もりた・みなと(森田湊斗)**  
ゴミ拾いをしたりゴミをなるべく出さないようにする

**かわもと・めい(河本恵依)**  
ごはんをのこさずに、ゴミはなるべくださない

**ならばやし・ひな(榎林陽菜)**  
かなしいかおにならないようにちしきをつけていろいろなくふうを考えたりたい。どんどんイベントに参加する

**うえつか・ゆき(上塚友葵)**  
学校の先生になってせんそうはやってはいけないことだと教える

**つじ・そうたろう(辻奏汰郎)**  
みんなを楽しませたい

**やました・えみか(山下笑花)**  
ごはんはたべれるりょうだけをとる。かいものいくときはエコバッグをもっていく

**こばやし・まさと(小林政仁)**  
むだなものを買わず、消費・賞味期限が近いものから食べていく。水をむだにせず、電気の消し忘れに注意する

(順不同)